

# 宝物館 HOMOTSUKAN (SEIRYUDEN) (青龍殿)



舍利・水晶舍利容器

源頼朝が生前信仰していた仏舎利を、夫人北条政子が当時高名だった松島の見仏上人に寄進し亡夫の菩提を弔わせた。

重厚な蔵造り風の本瓦葺の建物には展示室と収蔵庫があり、約3万点にものぼる資料を展示・収蔵。常設と特別展示室とで、季節・テーマにより展示を行っている。

## 主な収蔵品

- ◎本堂障壁画211面(江戸)
- ※法身・大覚・明極頂相(鎌倉~室町)
- ※伊達政宗甲冑倚像(1652)
- ※大脇差(1655)
- 歴代藩主画像(初代政宗~12代斉邦 江戸)
- その他多数展示品有
- ◎国指定重要文化財
- ※宮城県指定文化財



**大脇差**  
明暦元(1655)年政宗公20回忌にあたり、二代忠宗が江戸在住の富田大和守安定を招いて鍛刀させたもの。拵一式・袋・箱が付属する。  
[宮城県指定文化財]

## 伊達政宗甲冑倚像

政宗公27歳の雄姿を再現した等身大の木像。公17回忌に夫人陽徳院の発願で制作された。[宮城県指定文化財]  
※常に展示しているものではありません。

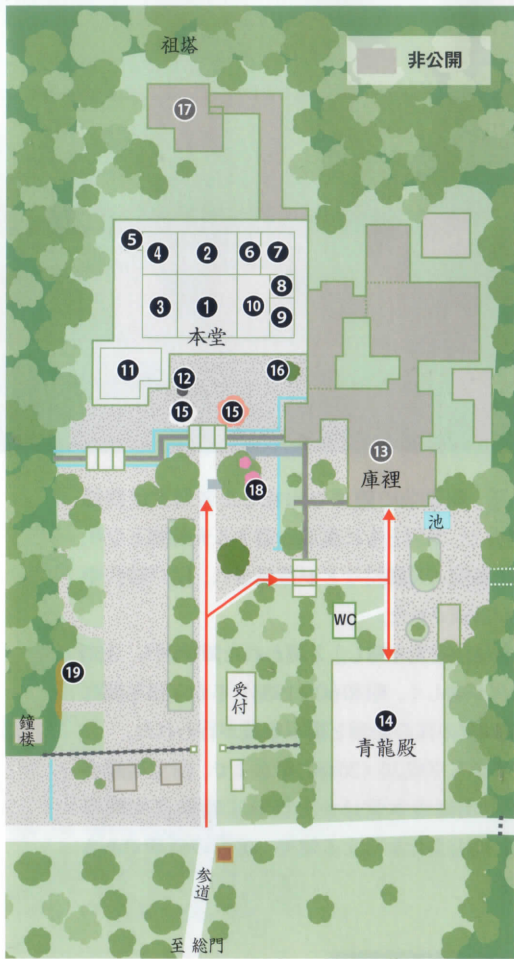
## 布教講座

写経 毎週木曜日  
※要電話確認  
午前10時~11時 / 午後2時~3時



## 年中行事

1月	1日	修正大般若会
2月	第1日曜日	松島カキ祭り
2月	15日	涅槃会
4月	8日	降誕会
4月	15日	松島八幡社例祭
4月	第3日曜日	日吉山王社例祭
6月	24日	藩祖政宗公毎歳忌
7月	24日	愛宕社例祭
8月	16日	大施餓鬼会
8月	20日	五大堂例祭
9月	8日	開山忌
10月	5日	達磨忌
10月	8日	葉山社例祭
11月	第2日曜日	芭蕉祭
12月	8日	成道会
12月	31日	火鈴巡行・除夜の鐘



## 瑞巖寺 境内案内

- 1 室中孔雀の間
- 2 仏間
- 3 文王の間
- 4 上段の間
- 5 上々段の間
- 6 羅漢の間
- 7 墨絵の間
- 8 菊の間
- 9 松の間
- 10 鷹の間
- 11 御成玄関
- 12 南蛮鉄灯籠
- 13 回廊及び庫裡
- 14 青龍殿(宝物館)
- 15 臥龍梅(紅白梅~花期4月中)
- 16 五葉松
- 17 埋木書院
- 18 石斛(花期5月末~6月初)
- 19 法身窟

瑞巖寺拝観料金	個人	団体 (30名以上)	団体 (100名以上)
大人(大学・各種校・高校含む)	700円	650円	600円
小人(中学・小学校)	400円	350円	300円

※障がい者手帳をお持ちの方はお問い合わせください。

## 臨済宗妙心寺派 青龍山 瑞巖寺

〒981-0213 宮城県宮城郡松島町松島字町内91番地  
TEL (022) 354-2023 FAX (022) 354-5145

ホームページ [www.zuiganji.or.jp/](http://www.zuiganji.or.jp/) 瑞巖寺  検索

案内ガイドについては、松島観光ガイド  
TEL (022) 354-3218にお問い合わせ下さい。



ZUIGANJI-TEMPLE

臨済宗妙心寺派

青龍山

瑞巖寺

# 臨濟宗妙心寺派 青龍山瑞巖寺

「松島青龍山瑞巖円福禅寺」即ち瑞巖寺は臨濟宗妙心寺派の禅寺である。

平安時代の初め天長5(828)年、慈覚大師円仁により開創され、天台宗延福寺と称した寺がその前身であると伝える。

鎌倉時代中期の13世紀半ば、執権北条時頼公が法身性西和尚(俗名真壁平四郎)を開山とし、円福寺と改称、臨濟宗建長寺派の禅寺に改めた。

円福寺は鎌倉幕府の庇護の下に栄え、室町時代も五山十刹制度の諸山に位置づけられ、末寺を作り発展した。しかし、戦国時代を経て寺勢は衰え、その末期に妙心寺派に属した。

江戸時代の初め、仙台六十二万石の祖となった伊達政宗公が、師傳虎哉禅師のすすめで現在の大伽藍を完成させた。

工事は慶長9(1604)年に始まり、松・杉・櫟の良材を熊野に求め、京都・根来の名工を集め、5年の歳月をかけ完成した。本堂御成玄関、庫裡回廊は国宝に、御成門、中門、さらには障壁画が国重要文化財に指定されている。



## 庫裡(庫裏)

**国宝**

禅宗寺院の台所。正面13.8m、奥行23.6m。大屋根の上にさらに煙出しが載っている。本来実用本位の建物に唐草や花肘木の彫刻が施されたことに、政宗公の美意識が窺える。昭和34年国宝指定。



寛永13(1636)年、政宗公の遺言で来松した名僧雲居禅師(1582~1659)の努力で、名実ともに奥羽に冠する大禅刹となり、周辺にも円通院、陽徳院、天麟院などが造営され、江戸時代中期には30余の寺街が形成された。

芭蕉によって「金壁荘巖光を輝し」と謳われた障壁画も、360年の歳月を経て劣化が著しく、昭和60(1985)年から10年間にわたり211面の障壁画群の保存修理と模写事業が行われた。

平成20(2008)年から平成30(2018)年春まで、国宝瑞巖寺平成の大修理(国宝瑞巖寺本堂ほか七棟建造物保存修理事業)が行われ、安土桃山文化を伝える建築・美術の精華である創建当初の姿となる。

## 瑞巖寺本堂

**ZUIGANJI HONDO** **国宝**

瑞巖寺本堂は南東に面し、南西端に御成玄関が、南東端に庫裡(庫裏)に続く回廊が接続する。大きさ正面38m、奥行24m。入母屋造りの本瓦葺きで10の部屋がある。慶長9年から5年の歳月をかけ、同14(1609)年完成。松・杉・櫟は熊野から運ばれ、京都・根来の大工衆が技を競った。



## 唐戸・欄間

**KARADO & RANMA**

東南北三方に上縁・下縁を巡らす。室内への入り口を画す唐戸や欄間の総透かし彫りの彫刻は、根来の工匠刑部一門の作。

## 上段の間

**JODAN-NO-MA**

藩主御成の間。黒塗框の豪壮な床の間・火頭窓・違い棚を備えた書院で、特に火頭窓等に施された飾金具がすばらしい。襖絵は長谷川等嵐の筆。火頭窓の上の「円満」の額は、五代吉村公の筆。



松に孔雀図(復元部分)狩野左京筆(室中孔雀の間)

十一日、瑞巖寺に詣。

七堂薨改まりて金壁荘巖光を輝、  
仙土成就の大伽藍とはなれりける。

(松尾芭蕉「奥の細道」)

